

コロナ禍において開催したテーマ展

「自然の美 ー植物画でみる日本を彩る花ー」の概要報告

杉 江 喜 寿

**Summary report of theme exhibition "the beauties nature -flower adds color Japan
found in Botanical Illustration-" held in the Coronavirus(COVID-19) calamity**

Yoshihisa SUGIE

山口県立山口博物館研究報告

第47号(2021年3月)別刷

Reprinted from

BULLETIN OF THE YAMAGUCHI MUSEUM

No.47(March 2021)

コロナ禍において開催したテーマ展 「自然の美 ー植物画でみる日本を彩る花ー」の概要報告

杉江 喜寿¹⁾

Summary report of theme exhibition "the beauties nature -flower adds color Japan
found in Botanical Illustration-" held in the Coronavirus(COVID-19) calamity

Yoshihisa SUGIE

1 はじめに

当館の展示は、規模の大きなものから特別展、テーマ展、コーナー展示となっており、特別展は年1回のみ（夏季に）開催する大規模なもので、テーマ展はそれに次いで規模で各担当が持ち回りで年に数回開催するものである。

今回のテーマ展は、植物分野の展覧会としてはよくみられる「植物画」をメインに据えたものであるが、子どもたちから高齢者まで幅広い年代層の来館者がある総合博物館として、単なる「植物画展」ではなく、これまであまり植物に興味を持ってこなかった人にも、植物画を1つのきっかけとして植物に少しでも関心をもってもらうために企画したものである。

植物画展では、一般的には美術館やギャラリー系では植物画のみを展示し、博物館系では植物画とともにその植物のさく葉（押し葉）標本を展示することが多くみられるが、今回は子どもたちにも関心をもってもらい、楽しみながら学びもできるようにさまざまな工夫をした。まずは植物画で紹介した植物すべての画像を並べて展示したことである。これによりその植物の自然に近い状態や絵にはない時期の様子も知ることができる。また平板的で退色も激しいさく葉標本ではなく、あえて立体的な乾燥標本をできるだけ展示時期に合わせて作成し、実物の姿や形をリアルに感じることができようにした。さらに子どもたちにも人気な当館のマスコットキャラクター「なっとくん」や画像などを用いて、その植物の特徴やふしぎを解説した4コママンガや数秒でその植物の特徴をつかめるように20文字弱で解説した川柳風解説などを制作して展示した。他にも植物画の描き方を映像で展示したり、展示した植物に関するクイズや場所の関係で展示しきれなかった画像をモニターで上映したりするなど、当館ならではの植物画展を開催することとした。

本稿は、「自然の美 ー植物画でみる日本を彩る花ー」について報告するものであるが、2020年の2月頃から新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴って、当館でも臨時休館、行事の中止などが相次ぐ中で、このテーマ展についても計画通りにいかず、さまざまな影響を受けることとなった。したがって、テーマ展そのものとともに新型コロナによる影響やその対応も併せて報告する。またこのテーマ展を機会に「バーチャル博物館（ミュージアム）inやま

1) 山口県立山口博物館（植物）

はく」を開設したので、これについても報告する。

2 展示時期・場所

- (1) 期間 令和2年(2020年)5月26日(火)～7月12日(日)
(当初の予定は、4月24日(金)～5月24日(日)であったが、新型コロナウイルスの影響により4月14日(火)～5月24日(日)まで臨時休館したため延期して開催した。)
- (2) 場所 3階展示室(旧講堂)

3 展示構成

(1) 展示の目的(あいさつ文より)

私たちが生きていくためには「植物」がなくてはならない存在であるということはよく知られています。しかし、あまりにも身近であり、あまりにも当たり前すぎる存在であるが故に、日頃はそれほど植物に関心を持たない人が多いのもまた事実です。

本展では、日頃からそんな植物たちに深い愛情を注いでおられる日本植物画倶楽部の会員の皆さんが描いた植物画の数々を、「日本を彩る花」というテーマのもとで全国各地から一堂に集め、子どもたちから大人まで親しみやすいように画像や実物標本、解説マンガなどを添えてわかりやすく紹介しています。

これまで見ていなかった花や木が見えてくると、昨日と同じ道を歩いていても季節の変化を肌で感じ、虫の声や小鳥のさえずりにも気づく楽しいひとときになります。本展示を御覧いただくことで、少しでも植物に関心を持ち、自然の素晴らしさや不思議さ、そしておもしろさに興味をもっていただけると幸いです。



写真1 会場全景1



写真2 会場全景2

(2) 展示内容

① 植物画22点

日本植物画倶楽部の協力により、全国の会員のうち21名の作品22点を展示した。22点

(種としては24種)の選定理由としては、展示時期が春の予定だったため春の植物を中心に四季の花であること、基本的には山口県でもみられる野生種であることとした。ただし、「アカマツ」や栽培種の「ワタ」を入れるなど、子どもたちに身近なふしぎな植物として興味をもってもらえそうな種も若干選んだ。(一覧については「出品目録・解説」参照)



写真3 植物画1



写真4 植物画2

② 植物画で描かれた植物の画像

22点の植物画に対応して、実際の生育状況や特徴がよくわかる画像を撮影して展示した。植物画と画像を同時に展示することは躊躇する面もあったが、博物館として植物そのものに興味をもってもらいたいという観点から展示することにした。ノエンドウは、1つ植物画に3種描かれていたため、計24種展示した。

③ 植物画で描かれた植物(一部)の実物標本

22点24種の植物画のうち、17種については、花や実などの実物標本を展示した。これは、植物分野の展示で一般的に使用されるさく葉(押し葉)標本ではなく、実物をそのまま乾燥させるドライフラワーの手法で立体的に保存した標本である。「コブシ」や「シロヤマブキ」「アオギリ」の実など、季節的にすぐに展示できないものもあり、変色してしまったものもあるが、「フジ」や「3種のノエンドウ」、「アヤメ」「キリ」などは花も含めて展示直前に採取できたので、変色もほとんどせず立体的のあるまま展示することができた。展示の会期がずれたので、この実物展示の数を増やすことができた。



写真5 アヤメ



写真6 アオギリ



写真7 ネコヤナギ

④ 解説風4コママンガ

当館の来館者で半数以上を占める子どもたちも含めて、植物に特に興味をもっているわけではない来館者に、少しでも興味を持ってもらおうと、数年前から植物の特徴や不思議

さを4コママンガで紹介し、常設展で展示してきた。今回は、植物画22点に合わせて、ほとんどは新たに作成して展示した。当館のマスコットキャラクターである「なっとくん」や葉っぱのキャラクターが、その植物を紹介するものであるが、その中で使う画像もすべて自分で撮影したものを利用した。



写真8 4コマ解説1



写真9 4コマ解説2

⑤ 「川柳風一言解説」を含む解説

県外他館で、魚の特徴を川柳風に解説しているキャプションがあり、短い文で簡潔にしかも印象的にその特徴をとらえていることに驚き、今回初めて取り入れてみた。実際に作成してみると、5・7・5を基本にわずか17字程度で、直観的に植物の特徴などを学ぶことができるため、植物画や画像と並んで子どもたちの理解や関心を深めるためには有効な手段であると感じられた。

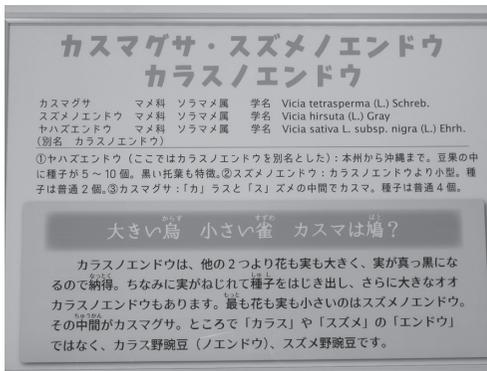


写真10 川柳風解説1

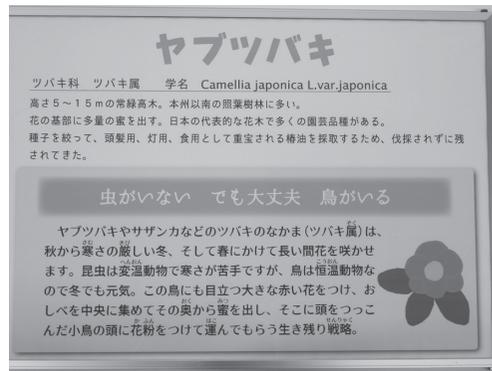


写真11 川柳風解説2

⑥ 映像展示

○植物画の描き方

日本植物画倶楽部の会員の方が実際に描いているところを撮影していた貴重な映像をお借りして、編集して上映した。

○植物クイズ

植物画に描かれた植物の花などの一部を拡大してデジタル顕微鏡で撮影し、日頃は見られないミクロの世界をクイズ形式で紹介した。

○山口県の希少植物・おまけ映像（画像展示できなかったもの）

植物画22点の植物の画像のうち、展示できなかったものや似ていて間違えやすい植物の映像と山口県の希少な植物の画像や映像をそれぞれ紹介した。



写真12 植物画の描き方



写真13 植物クイズ



写真14 おまけ映像

⑦ その他（本・冊子・植物グッズ・春の植物画像・実物など）の展示

植物画倶楽部の図録、植物画の描き方の本、自作の植物通信「なっくとくんの緑のたより」の冊子、県内で春に咲いている貴重な植物の画像などを展示した。

また大阪市立自然史博物館内の特定非営利活動法人大阪自然史センターが制作・販売している植物グッズなどを許可を得て展示した。これらも幅広い年代層に少しでも植物に関心をもってもらう取り組みである。本・冊子については、手指の消毒を前提に閲覧可能とした。

「ノエンドウ」の3種は、博物館の敷地内で採取できたので、当初の会期（バーチャル博物館の撮影時）では、実物の花を花瓶に生けて展示した。これは実際に植物を手にとって五感で感じてもらうための展示であったが、コロナ禍により手で触れてもらうことはできなかった。

ここ数年の当館の展覧会では、SNSでの発信効果を狙って撮影用の顔出しパネル（屋外）やフォトスポット（屋内）設置している。今回は接触回避のため、子どもたちに大人気の顔出しパネルは断念し、フォトスポットを設置した。



写真15 図録・冊子など



写真16 植物グッズなど



写真17 フォトスポット

(3) 出品目録・解説

今回の展示目録は、植物画の目録に加えて、展示解説としての川柳風の一言解説と解説キャプションの一部を掲載して配布した。予算的に図録の作成ができない中で、少しでも魅力ある記録として残せるように工夫した。

出品目録・解説【出品者の氏名は、インターネット版には掲載していません。】

植物画目録				担当学芸員より（※絵の解説ではありません）		
No.	作品	作品名	都道府県	科・属・学名	解説（ガイド）	
					一言解説 （川柳風）	展示解説より （一部抜粋）
早春から春を彩る花		ネコヤナギ	京都府	ヤナギ科 ヤナギ属 <i>Salix gracilistyla</i> Miq.	パッと見は猫の尾より毛虫の団地	何気なく小枝を見ると、ネコの尻尾というより毛虫の集合住宅に見えるのですけど。
		ハクモクレン	滋賀県	モクレン科 モクレン属 <i>Magnolia denudata</i> Desr.	純白の大きな花びらがくはどこ？	花弁(花びら)もがく片も同じ色と形で、どれが花びらでどれががくか区別が付きません。
		コブシ	東京都	モクレン科 モクレン属 <i>Magnolia kobus</i> DC.	実(み)が拳(こぶし)つぼみも拳(こぶし)花はパー	実が大きくなると、拳というより拳でギョツと握りつぶしたように見えます。
春を彩る花		カスマグサ・スズメノエンドウ・カラスノエンドウ	東京都	カスマグサ マメ科 ソラマメ属 <i>Vicia tetrasperma</i> (L.) Schreb. スズメノエンドウ マメ科 ソラマメ属 <i>Vicia hirsuta</i> (L.) Gray ヤハスエンドウ(別名 カラスノエンドウ) マメ科 ソラマメ属 <i>Vicia sativa</i> L. subsp. <i>nigra</i> (L.) Ehrh.	← 大きい鳥(からす) 小さい雀(すずめ) カスマは鳩(はと)？	最も花も実も小さいのはスズメノエンドウ。その中間がカスマグサ。
		カリン	山口県防府市	バラ科 カリン属 <i>Pseudocodynia sinensis</i> (Thouin) C.K.Schneid.	かたい実もあれこれ役立つ薬にも	何とかして食べようという工夫されてきて、今ではしっかり市民権を得ているすぐれもの。
		クマガイソウ	広島県	ラン科 アソモリソウ属 <i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.	膨らんだかわいい袋も悲しい話	人の名前が付き、形もふしぎでおもしろいのですが、素直に楽しめない。
		ショウジョウバカマ	大阪府	シュロソウ科(ユリ科) ショウジョウバカマ属 <i>Heloniopsis orientalis</i> (Thunb.) C. Tanaka	葉っぱから周りに広がる分身の術	丈夫な葉の先が地面につくとそこから芽が出て、根が出て成長するという面白い生態です。
		シロヤマブキ	東京都	バラ科 シロヤマブキ属 <i>Rhodotypos scandens</i> (Thunb.) Makino	山吹と色も違っていろいろ違う	ヤマブキはヤマブキ属で、シロヤマブキはシロヤマブキ属。風が異なり、探せばいろいろと違いがあります。

表1 出品目録・解説1 (インターネット版)

植物画目録				担当学芸員より (※絵の解説ではありません)			
春を 彩る 花	9		フジ	千葉県	マメ科 フジ属 <i>Wisteria floribunda</i> (Willd.) DC.	しだれ藤 じっくり見たいが 蜂がくる	見事な花を咲かせますが、何しろ花の数が多いため、それだけたくさん昆虫を集めてしまいます。
	10		ヤマフジ	島根県	マメ科 フジ属 <i>Wisteria brachybotrys</i> Siebold et Zucc.	巻きついて 咲いて納得 フジじゃない	他の木の枝に巻き付いていても、葉だけではフジもヤマフジも同じように見えてしまいます。
	11		アカマツ	兵庫県	マツ科 マツ属 <i>Pinus densiflora</i> Siebold et Zucc.	松ぼっくり 種があるから 花も咲く	「松ぼっくり」は球果と言って実ではなく、その隙間に種子ができ、風で飛ばされます。マツは、花は地味ですが、山口県の県木です。
	12		ナシ(稲城)	東京都	バラ科 ナシ属 <i>Pyrus pyrifolia</i> (Burm.f.) Nakai	少しでも 大きくおいしく ヤマから里へ	少しでも大きく少しでもおいしくなあれ、という人間の欲望で栽培され、長い時間をかけて品種改良されました。
	13		ガマズミ	神奈川県	レンブクソウ科(スイカズラ科) ガマズミ属 <i>Viburnum dilatatum</i> Thunb.	林縁で ふんわり目立つ 白アジサイ?	あれっアジサイ? それにしては平らで花に色がないと思ったらこのガマズミ。
	14		アヤメ	東京都	アヤメ科 アヤメ属 <i>Iris sanguinea</i> Hornem.	アヤメは陸地 カキツバタは水没 ノハナショウブは 湿地好き	基本的には乾いた土地ではアヤメ、池など根元がすっかり水につかる場所ではカキツバタ、それなりの水辺や湿地ではノハナショウブ(園芸品種はハナショウブ)。
	15		キリ	神奈川県	キリ科(旧ゴマノハグサ科) キリ属 <i>Paulownia tomentosa</i> (Thunb.) Steud.	軽い材 桜とともに 日本の顔	紫色で高貴な色の花を咲かせることから、菊とともに日本を代表する植物として、重要な紋章等にも使われてきました。
	16		アオギリ	神奈川県	アオイ科(アオギリ科) アオギリ属 <i>Firmiana simplex</i> (L.) W.F.Wight	幹青く 種子はポートで 葉っぱはキリ	葉が大きく雰囲気はキリに似ているとはいえ、あとは全然キリに似ていないアオギリ。



表2 出品目録・解説2

植物画目録					担当学芸員より（※絵の解説ではありません）		
No.	作品	作品名	都道府県	作者氏名	科・属・学名	展示解説（ガイド）	
						一言解説 （川柳風）	展示解説より 一部抜粋
17		ヤマボウシ	神奈川県		ミズキ科 ミズキ属 <i>Cornus kousa</i> Buerger ex Hance subsp. <i>kousa</i>	行儀よく 空を見上げて 〇〇コブター	葉の上にきれいに並んだ花びら。とってこれらは花びらではなく花を支える部分（総苞）。〇〇は、ヘリではありません。
18		トベラ	東京都		トベラ科 トベラ属 <i>Pittosporum tobira</i> (Thunb.) W.T.Aiton	臭いから 鬼は逃げるが 鳥は来る	節分の鬼退治に使われるというトベラ。実はまた特有の臭気があり鳥がよく食べるというから不思議。
夏を 彩る 花		サルスベリ	京都府		ミソハギ科 サルスベリ属 <i>agerstroemia indica</i> L.	百日間 雄しべと雄しべで 挟み撃ち	花には長い雄しべと短い雄しべがあり、虫が中に入り込むと上下で挟み込んで無駄なく花粉をつけて運んでもらいます。
		キツネノカミソリ	東京都		ヒガンバナ科 ヒガンバナ属 <i>Lycoris sanguinea</i> Maxim. var. <i>sanguinea</i>	ユリ系？ よく見てみると ヒガンバナ系	花だけ見ればユリの花ですが、ヒガンバナのように葉が枯れた後に花茎が伸びて花が咲きます。
秋から 春を 彩る 花		ワタ	大阪府		アオイ科 ワタ属 <i>Gossypium arboreum</i> L.	フワフワの 白い綿毛が 人類の宝	現在見られるのは栽培種ですが、これだけお世話になっておきながら、ワタの実や美しい花を知らない人が多いですね。
		ヤブツバキ	兵庫県		ツバキ科 ツバキ属 <i>Camellia japonica</i> L. var. <i>japonica</i>	虫がいない！ でも大丈夫 鳥がいる	花に頭をつつこんだ小鳥の頭に花粉をつけて、運んでもらうという生き残り戦略。



表3 出品目録・解説3



写真18 展示ケース内1



写真19 展示ケース内2

4 新型コロナの影響と対応

(1) 新型コロナ感染症拡大に伴う影響

2019年2月頃からの世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当館でもさまざまな影響を受けてきた。県内の小中学校等が3月2日(月)から休校になったことに伴い、当館も3月3日(火)から3月26日(木)まで臨時休館になった。3月27日(金)の春休みから開館はしたが、その後の再流行に伴い、テーマ展開始直前の4月14日(火)から本来のテーマ展終了日であった5月24日(日)まで再び臨時休館となった。テーマ展の準備は、緊急事態宣言の中でも粛々と進めていたが、全国の出品者の方には緊急事態宣言の中にもかかわらず出品をお願いするなど、心配と迷惑をかけることになった。

その後、本来のテーマ展終了日であった5月24日(日)まで臨時休館となったことで、同じ展示場所を使う予定であった次の天文分野のテーマ展の準備もあることから一旦は本テーマ展は中止ということになった。しかし5月の連休が明けてから、コロナの流行が落ち着き始めたことで国や県の動向もイベント開催に前向きとなり、次の天文のテーマ展を別の展示室で開催し、本テーマ展との同時開催に踏み切ることとなったのである。それにより、5月26日(火)の再開館に合わせて本テーマ展の展示をスタートした。

展示の開始時には、本テーマ展の終了予定日は、同じ会場で開く夏の特別展の準備のため6月中旬としていたが、その特別展がコロナの影響での学校の夏休み短縮などを考慮して開始を2週間程度延期したため、最終的には7月12日(日)まで開催することができた。

(2) 新型コロナ感染症への対応

テーマ展の関係では、計画にあった主に子どもたち向けとして用意していたが接触の多い自然の木を生かした積み木の利用、手でめくる形式のクイズ、顔出しパネルを中止した。本や冊子については図書館などと同じ扱いということで、手指消毒を前提に閲覧可とした。※館全体における影響及び対応は、館報第47号(本号)「新型コロナウイルス感染症の感染拡大による山口県立山口博物館の運営への影響と対応」に、別途記載している。

5 バーチャル博物館（ミュージアム）の開設について

(1) 概要

新型コロナウイルス感染拡大の以前からバーチャル博物館の必要性について前向きに検討していたところであるが、本テーマ展開催の準備がほぼ完成した段階にも関わらず中止に傾きつつあったことを受けて、前倒しでバーチャル博物館の準備を進めることにした。

とりあえずは当館のホームページから閲覧するという形式で、コロナ禍で来館できなくても家庭や学校などにいながら展示の雰囲気を楽しむだけでなく、社会教育施設として学習効果もある内容とするとともに、このバーチャル博物館を来館意欲の向上につなげることも目的として実施した。

バーチャル博物館の開始日は、当初の展示開始日であった4月24日以降とし、最終的には5月のゴールデンウィーク中に少しでも家庭でも見られるように、5月1日開始とした。

(2) 内容

① 第1部 「パノラマで見てみよう！」

360°カメラを展示会場の中心部に設置して撮影した映像を公開した。これは会場の360°映像を見ながら、視点を自由に動かすことができるもので、気に入った場所を自分で探して自由に拡大することができるものである（RICOH THETA SC2使用）。このメーカーのサイトに接続すればさらに高機能な360°映像を楽しむことができるしくみである。

この360°映像は、単なる映像を視聴する通常のものとは異なり、観覧者の意思で主体的に参加、体験することができるという利点がある。

② 第2部 「会場をのぞいてみよう！」

これは、実際に来館者が展示室内で見学している視点というコンセプトで撮影したものである。見学コースにしたがって歩きながら目の高さで展示物を撮影している。そのためこの映像を見た人は実際に博物館に来て展示室内を見学している気分になれるものである。これは動画サイト上での公開とした。

③ 第3部 「植物っておもしろいね！」

これは、第1部、第2部の映像だけでは見学の雰囲気を味わうことを優先しているため、どうしても個々の展示物の内容を詳しく落ち着いて見るができない、という欠点を補うものである。とはいえ、あまり高解像度にすると作品の著作権保護ができないことや出品者の氏名がはっきり公開されてしまう危惧もあるため、必要最小限の解像度に抑えて撮影している。

④ おまけ 「クイズにチャレンジ！」 「おまけのアルバム」

最後に、会場で流すことにしていた、植物クイズの映像と展示できなかった画像のスライドショーを「おまけ」として公開することにした。これは動画サイト上での公開とした。

第47号 2021〕 コロナ禍において開催したテーマ展「自然の美－植物画でみる日本を彩る花－」の概要報告



写真20 HP (トップ画面)



写真21 バーチャル1



写真22 バーチャル2



写真23 バーチャル3 (個別)



写真24 バーチャル4 (クイズなど)

これらのバーチャル映像により、メインの展示物である植物画の情報だけでなく会場の雰囲気や展示内容を正確に知ることができる充実した内容となった。

6 おわりに

今回はまさにコロナ禍での異例づくしの展覧会であった。次第に悪化していく状況の中で、準備を進めながらも心がくじけそうになる場面も多々あった。しかし、開始直前に一旦中止が決まり出品者への中止の連絡文書を作成し発送する当日になって、当館の館員の協力により会場を片付けることなく展示開始が決まるなど、全国的に博物館の休館や企画展の中止が相次ぐ中で、さまざまな人の協力や励ましによりまさに奇跡的に無事に展示を終了することができ、本当にありがたい思いである。

展示内容では、メインはもちろん細密な植物画であるが、それらと合わせて実際の生態の画像、立体標本、4コママンガ風や川柳風の解説、感想を交えた解説などを展示し、その植物に少しでも親しんでもらえるように工夫を凝らした。画像や標本はともかく、解説はマンガを始めとしてそれぞれ全くのオリジナルであり、これまでどこの博物館や展示会場でも見られない新たな植物画展の在り方を示すことができたのでないかと自負している。変色したさく葉標本ではなく、植物のもつ雰囲気を示すことができる色の落ちていない立体（乾燥）標本や、実際の生態の様子を示す画像、読んで楽しく中にはクスッと笑えるような解説があれば、と思ってきたことを実現することができたからである。

地味な植物で展示を企画するのはなかなか大変である。どこの館でも植物展示で人を集めるのは苦勞をしている。もちろん植物の世界に興味をもっておられる人は数多く、それなりに人気の分野ではあるのだが、子どもからその若い親の世代に限るとその人気はほんの一部に限られてしまうように感じる。そういう世代にまず植物に興味をもってもらうためには、これからもさまざまな仕掛けを考えていく必要があると考えている。

コロナ禍で、屋内施設である博物館はどれも今後も苦しい状況が続くことは間違いないが、例えば近くの秋吉台では、このコロナ禍の影響なのか駐車場に入りきれないほどの人が殺到していた（2020年の秋）。このような状態は数十年前の国内旅行ブーム以来ではないだろうか。それほど空前のアウトドアブームであることは、当然野外の植物や動物といった自然に目を向ける人々も増えそうな気配といえる。バス遠足や修学旅行も軒並み屋内から屋外へシフトしている。コロナ禍で暗澹たる毎日ではあるが、理由はともあれ家族などと外に出て自然の空気を吸い、自然の光にあたり、自然にふれることは悪いことではない。

話がそれだが、最終的には本テーマ展の期間中の入館者は1,309人となり、コロナ禍の中しかも緊急事態宣言が解除されたばかりで屋内施設への訪問自粛が言われた状態で、社会見学等も中止であったにも関わらず、多くの方にご覧いただくことができた（開催時期がずれて、次の天文分野のテーマ展との同時開催になってことも大きな要因である）。コロナ対策として来館者アンケートは実施することができなかったが、当館のサポーターやモニターの方の意見ではバーチャルミュージアムも含めて大変好評であった。

また、今回の出品者は全国におられるので、コロナ禍ではなくても、なかなか来館されることは難しい状況であった。しかしコロナ禍のせいでやむなく始めたバーチャル博物館の試みにより、その出品者の方々に展示の様子を詳しく伝えることができたのは幸いであった。後日、「これまでいろいろな展覧会に出品してきたが遠方で見に行くことができなかったのに、今回はこうしてバーチャル博物館で展示の様子を見ることができて大変ありがたかった」、という感謝の言葉をたくさんいただいた。

こうして考えると、コロナ禍で大変ではあったが、結果的には悪いことばかりではなく、次につながる明るい兆しも見えてきたのかもしれない。

最後になるが、前任者が担当した2007（平成19）年のテーマ展「植物画で見る帰化植物」2013（平成25）年のテーマ展「植物画で見る日本の固有植物」に引き続き、本展示に快く御協力いただいた現会長の 尾関ちづる様をはじめとする日本植物画倶楽部の皆様、特に2年前の準備開始時に会長であった 曾我恵子様には大変な御協力をしていただいた。また植物画を提供していただいた日本植物画倶楽部の会員21名の皆様にも心から感謝申し上げる。

○今回のテーマ展開催にあたり、以下の文献を参考にした。

- 奥田 重俊（編）. 1997. 日本野生植物館 小学館. 東京
- 林 弥栄（監修）. 1989. 野に咲く花. 山と溪谷社. 東京
- 門田 裕一（監修）. 2013. 野に咲く花増補改訂新版. 山と溪谷社. 東京
- 門田 裕一（監修）. 2013. 山に咲く花増補改訂新版. 山と溪谷社. 東京
- 林 弥栄（編）. 2011. 日本の樹木 合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. 東京
- 山と溪谷社. 東京
- 林 将之（解説・写真）. 2014. 樹木の葉. 山と溪谷社. 東京
- 高橋 秀男他（監修）. 2001. 樹に咲く花. 山と溪谷社. 東京
- 牧野富太郎（著）. 1984. 学生版原色牧野日本植物図鑑. 北隆館. 東京
- 佐川義輔、大井次三郎、北村四郎、亘理俊次、富成忠夫（編）. 1982. 日本野生植物図鑑草本 I 単子葉類・草本 II 離弁花類. 平凡社. 東京
- 佐川義輔、大井次三郎、北村四郎、亘理俊次、富成忠夫（編）. 1981. 日本野生植物図鑑草本 III 合弁花類. 平凡社. 東京
- 佐川義輔、原 寛、亘理俊次、富成忠夫（編）. 1989. 日本野生植物図鑑 木本 I・木本 II. 平凡社. 東京
- 清水健美（編）. 2003. 日本の帰化植物. 平凡社. 東京
- 清水矩宏、森田弘彦、廣田伸七（編・著）. 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会. 東京
- 植村 修二、勝山輝男、清水矩宏、本田光雄、森田弘彦、廣田伸七、池原直樹（編・著）. 2010. 増補改訂日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会. 東京
- 阿部 正敏（著）. 1988. 葉による野生植物の検索図鑑. 誠文堂新光社. 東京
- 南 敦（著）. 2014. ふるさとの花. 中村印刷. 山口
- 中沢 妙子（著）. 2014. 秋吉台で出会った花. 秋吉台エコ倶楽部. 山口
- 岡 国夫ほか（編）. 1972. 山口県植物誌. 山口県植物誌刊行会. 山口
- 山口県野生生物保全対策検討委員会. 2002. レッドデータブックやまぐち. 山口県環境生活部自然保護課.
- 山口県野生生物保全対策検討委員会. 2019. レッドデータブックやまぐち. 山口県環境生活部自然保護課. 山口(Web)
- 矢野 興一（著）. 2012. 観察する目が変わる植物学入門. ベレ出版. 東京
- 岩瀬 徹、大野啓一（著）. 2004. 写真で見る植物用語. 図書印刷. 東京

